



みんなで創るマチ「出前市長」開催

表原市長が市内で活動する団体などに出向き、ご意見を直接伺い各種計画の参考にする「出前市長」の初回を4月14日に商工業振興センターで開催しました。「四国はひとつ“阿波のみち”女性フォーラム実行委員会」の委員さん5人と「みちづくり・ひとづくり・まちづくり」をテーマに意見交換。みちづくりが活力あるひとづくりにつながることや阿南市の豊富な地域資源を生かしたまちづくり、農協や地元高校との連携による農産物開発の取組など活発なご意見・ご提言をいただきました。当日は、新型コロナウイルス感染対策を十分に行った上で実施しました。

阿南医療センター シンボルマークをお披露目

阿南医療センターのシンボルマークが、開院1周年となる5月1日にお披露目されました。全国から129点の応募の中から、前田貴行さん（東京都）が市の花ヒマワリと太陽をデザインした作品（写真左）に決定しました。前田さんは「このマークが、医療センターの皆さんとともに、いつまでも地域を明るく元気に照らし続けてほしい」とコメントしました。また、緩和ケア病棟のシンボルマークは、植原彩乃さん（富岡東高3年）がデザインした作品（写真右）に決まりました。



酵母菌でオーガニック米栽培 ドローンで散布

阿南市内の農家が、酵母菌を使ったオーガニック米の栽培に取り組んでいます。酵母菌や有機肥料の散布を繰り返すことで、3年かけて無農薬栽培をめざします。また、酵母菌散布にはドローンを使用し、作業の軽減を図ります。サニーズファームの北條誠一さんは、「安心でおいしい作物を阿南から発信したい」と意気込んでいました。

障がいへの理解を深めて

社会福祉法人悠林舎が、障がい者のアートによる取組を紹介する展示会を4月15日にアスティとくしまで開催しました。障害者支援施設利用者などが、「家」をテーマに創作した作品434点が展示されており、創造性豊かな作品が空間に広がっていました。展示のようすを動画で撮影し、ホームページで公開しています。ぜひ、ご覧ください。

HPアドレス：<http://platartproject.com/>





まちの活性化に向けて 地域おこし協力隊着任

4月1日、市役所で新しく着任する地域おこし協力隊員3人と移住促進コーディネーター2人に辞令を交付しました。着任するのは、写真左から新野シームレス民泊推進協議会で民泊や観光の企画に取り組む西尾保紀さん(40歳・愛知県津島市出身)と石田 大さん(46歳・東京都中野区出身)、加茂谷地区の地域おこしに取り組む岡崎裕樹さん(37歳・東京都足立区出身)、移住促進コーディネーターとして移住希望者の相談や受付業務に携わる笠谷紘平さん(27歳・阿南市出身)と岩浅壮泰(23歳・阿南市出身)です。5人は、「まちを活性化し、阿南市を元気にしたい」と意気込みを語りました。

コートベール徳島に「避難する像」 阿南中央ロータリークラブが寄贈

市指定避難所となっているコートベール徳島ゴルフクラブに、阿南中央ロータリークラブが避難を呼び掛ける像を寄贈しました。像は石造りで、高さ約90cm。4月16日に像の命名式があり、約300点の応募の中から、「ひななん」と名付けました。会長の町田哲子さんは、「防災意識の向上につながってほしい」と話していました。



ヒマワリ育てて、みんな笑顔に 阿南光高校が栽培セット配布

新型コロナウイルス対策への支援活動として、家庭でヒマワリを育ててもらおうと、阿南光高校が宝田こどもセンターと阿南保育園にヒマワリの栽培セット300個を贈りました。セットには、ヒマワリの種3粒と河川敷や公園などの刈り草から作った堆肥が入っています。教諭の湯浅正浩さんは、「阿南市の花であるヒマワリの栽培を通して、少しでも楽しい気持ちで過ごしてほしい」と話していました。この活動は、家庭で過ごす子どもたちへの支援活動として、市内のこどもセンターをはじめ幼稚園と保育園に1,000セット配布されました。

「野球のまち」の取組を発信 市職員が本出版

市秘書広報課事務主任の植田諭史さん(32歳)が、「野球のまち推進事業」の取組をまとめた本『「野球のまち」阿南』(A4判70ページ)を自費出版しました。植田さんは、2018年から徳島文理大学大学院で学び、修士論文として執筆。本は1,210円で、Amazon等で販売しています。なお、印税収入は、障がい者スポーツ団体に寄付されます。

